

やないづ 議会だより

第127号
平成23年(2011)
6月定例会報告

発行日：平成23年8月1日
福島県柳津町議会
(0241) 42-2390
編集 議会広報編集委員会

6月定例会・・・6月15日～17日

議案審議

予算・条例・人事 2

一般質問

- ・東日本大震災における風評被害対策及び今後の対応
- ・高齢者福祉
- ・地域主権改革による町行財政改革
- ・人事異動等と予算執行
- ・町道「門前柳ヶ丘線」

5議員が問う！ 3

委員会レポート 8



教育関係者との懇談会(7月25日、ふれあい館)

審議された議案

平成23年第2回6月定例会が6月15日より17日までの3日間の会期で行われました。

今回の定例会は、一般会計補正予算、国民健康保険条例の一部を改正する条例など、18議案が審議されました。

補正予算

一般会計総額36億2,518万5千円をはじめ、原案のとおり可決。

条例

【電気通信格差是正事業分担金徴収条例の制定】

地方自治法第224条及び同法228条第1項の規定に基づき、柳津町電気通信格差是正事業の実施に係る分担金の賦課、徴収その他分担金に關し、必要な事項を定める条例を可決。

【税特別措置条例の一部を改正する条例】

第3条中「平成23年3月31日」を「平成25年3月31日」に改める条例を可決。

【国民健康保険条例の一部を改正する条例】

国民健康保険税の税率

等を改正するための条例の一部改正を可決。

【一般会計補正】

予算総額に6,518万5千円を追加し、予算総額を36億2,518万5千円とした。

《主なもの》

- ▼商工費 2,329万3千円
- ▼土木費 3,127万4千円
- ▼教育費 1,282万9千円

【国民健康保険特別会計補正】

事業勘定の予算総額から1,790万8千円を減額し、事業勘定の予算総額を5億7,809万2千円とした。

また、施設勘定の予算総額に824万7千円追加し、施設勘定の予算総額を8,124万7千円とする。

額を8,124万7千円とする。

【後期高齢者医療特別会計補正】

予算総額から110万2千円を減額し、予算総額を5,079万8千円とした。

【介護保険特別会計補正】

総務管理費を1万2千円増額し、予備費を1万2千円減額した。予算総額は変わらず、4億3,500万円。

【簡易水道事業特別会計補正】

簡易水道事業費を33万7千円増額し、予備費を33万7千円減額した。予算総額は変わらず、1億9,050万円。

【林業集落排水事業特別会計補正】

総務管理費を25万円増額し、予備費を25万円減額した。予算総額は変わらず、550万円。

【固定資産評価審査委員

会委員の選任】

坂上重郎氏（岩坂町）の任期が6月30日で満了するに伴い、同氏を再任することに同意。

専決処分

【国民健康保険条例の一部を改正する条例】

第七条第一項中「三十五万円」を「三十九万円」に改め、同条第二項を削る条例を可決。

【国民健康保険条例の一部を改正する条例】

第二条第二項「五十万円」を「五十二万円」に改め、同条第三項中「十三万円」を「十四万円」に改め、同条第四項中「十万円」を「十二万円」に改める。

第二十三条中「五十万円」を「五十二万円」に、「十三万円」を「十四万円」に、「十万円」を「十二万円」に改める。

【平成22年度一般会計補正】

予算総額に8,621万9千円を追加し、予算総額を39億2,519万2千円とする案件を可決。

【平成22年度国民健康保険特別会計補正】

事業勘定総額を1,709万7千円減額し、予算総額を6億3,989万9千円とする。

【平成22年度簡易水道事業特別会計補正】

総額から70万円を減額し、予算総額を1億3,447万円とする。

【平成23年度一般会計補正】

民生費に903万5千円、教育費に52万3千円を追加し、予備費を955万8千円減額した。予算総額は変わらず、35億6,000万円。

【税条例の一部を改正する条例】

附則に次の1条を加える。
（平成23年東日本大震災による被災者等に対する入湯税の課税免除）

第22条 平成23年東日本大震災による被災者及び避難者に対しては、第142条の規定にかかわらず入湯税を課さない。

【税条例の一部を改正する条例】

附則に次の3条を加える。
（東日本大震災に係る雑損控除等の特例）

第23条 省略
（東日本大震災に係る住宅借入金等特別税額控除の適用期限の特例）

第24条 省略
（東日本大震災に係る固定資産税の特例の適応を受けようとする者がすべき申告等）

第25条 省略

陳情

▼子どもたちに長期的な健康モニタリングと定期的な健康診断の実施を求める意見書提出を求める陳情

◎陳情者

- ・福島県教職員組合
- 中央執行委員長 竹中 柳一
- ・福島県教職員組合
- 両沼支部長 齋藤 勝美

◎審議結果 採択

人事

国民健康保険税の税率

第2回定例会一般質問

一般質問は、議会招集日の15日に行われ5人の議員が質問に立ち、東日本大震災による風評被害対策、高齢者福祉、町道・門前柳ヶ丘線、地域主権改革による町行財政改革等について町長の考えをたどりました。



2番 菊地 正議員

○町道「門前柳ヶ丘線」について

町道「門前柳ヶ丘線」について

Q 岩坂町地区より福満虚空蔵尊・円蔵寺の裏通りに行く町道について伺います。円蔵寺、又は門前町に行く道路は、大型バスの進入を、ゆるやかに進入できる町道にしたいもので、町長の考えを伺います。

A (町長) 県道「会津柳津停車場線」から円蔵寺へ上がる坂は急勾配になっており、大型バスの通行には大変苦慮していることは、十分承知している。現在の場所から勾配を緩やかにするには、周辺の建物や工作物等に移転する必要があり、多大な経費がかかる。今のところ、改良する考えは持っていないが、注意看板等で対応していきたい。

そして現在、県において町中の道路を「歩車道共存道路」として、歩道の整備を進めている。これは町中を大型車が通るのではなく、より多くの観光客や参拝者に町中を歩いてほしい、という思いで整備しているものであり、町においても県と協力しながら、町中の活性化を図るため、努力してまいる所存であります。

五月の大型連休では、二名の交通整理員を配置し、裏の駐車場に10台下げて10台上げるとした、スムーズにすれ違いも出来ない、大変難所である。さらに、大型バスが坂の前で観光客を降ろし、一時間位、駅前で待機してしました。坂のあたりでバスから降りた観光客の中には、足腰の弱った人も見受けられました。

そこで、自分の提案ですが、長谷川・八百屋さん前から裏の駐車場への進入路を、新たに整備してはどうか。

Q 五月の大型連休では、二名の交通整理員を配置し、裏の駐車場に10台下げて10台上げるとした、スムーズにすれ違いも出来ない、大変難所である。さらに、大型バスが坂の前で観光客を降ろし、一時間位、駅前で待機してしました。坂のあたりでバスから降りた観光客の中には、足腰の弱った人も見受けられました。

駅前の道路についても、新たに国道252号線からの侵入路が作られるので、既存の建物等、有効活用を計りながら、皆さんと話し合って、進めて行きたい。

時代の流れといふか、玄関から玄関まで「車の時代」となった今、裏通りにある駐車場は、利用度が大きくなった。お盆の頃には、駅前の信号機から裏通りまで、車が身動きできないことが予想される。今後、駅前開発の第二段階でもいいから、お互い考えながら進めていきた

Q (町長) 今、それぞれの町づくりの中で、大規模な駐車場を作ったり、町中の道路を拡幅するという仕事をだんだん減っている。これからの観光地というの

は、それぞれの特色を生かしながらその町に合った観光地を作り上げていくという方法に、手段として考えている。これから柳津町が持続していくためには、これらの条件を踏まえた町づくりがいいのでは。そして、コンパクトな駐車場、そういったもので町の景観を損ねないような方法をとっていくのが、これからの町づくりに必要である。

A (町長) この坂については、以前も計画して皆さんの話し合いをして、何とかかろうじてあれだけ下げたもので、急にといいにはいかない。そしてやはり、基本姿勢として、私たちの町は、私たちが大切にす、そしてまた、私たちが誇れる町、そして愛する町だと思いをその町づくりに生かされると思っている。これから景気が持ち直して、海外の皆さんが柳津にも来ていただけるようなスポットになってくれればと思っている。それにはまず、受け皿の最も大切な町民としての「もてなしの心」を十二分に育てていきたい。

では、何といたても駅前進入道路を成功させて、時間をかけも結構ですから、大型バスの進入の希望を願って質問を終わります。

これは、お盆の頃には、駅前の信号機から裏通りまで、車が身動きできないことが予想される。今後、駅前開発の第二段階でもいいから、お互い考えながら進めていきた

は、それぞれの特色を生かしながらその町に合った観光地を作り上げていくという方法に、手段として考えている。これから柳津町が持続していくためには、これらの条件を踏まえた町づくりがいいのでは。そして、コンパクトな駐車場、そういったもので町の景観を損ねないような方法をとっていくのが、これからの町づくりに必要である。



6番 小林 功議員

○東日本大震災における風評被害対策 ○高齢者福祉

東日本大震災における風評被害対策

3月11日の大

Q 震災では、多くの方が被災された。被災地の一日も早い復旧・復興を願うばかりです。目に見えない放射線の汚染の恐怖により、120キロ以上離れた当町においても、風評被害により大きな打撃を受けている。町は産業を守り、町民の生活を守るため、どのような対策を講じるのか、お伺いします。

A (町長) 今後の影響が懸念される中、5月25日に「柳津町東日本大震災風評被害対策会議」を設置し、観光PRとして、誘客活動と合わせて、農産物・特産物の販売を進め、福満商品券の追加補助、住宅改修費の補助等、補正予算4千6百万円を計上して風評被害対策を講じたい。

Q 柳津町の産業にどのような被害や影響があったのか、又、

今後予想される被害は？

A (町長) 会津ブランドといえども観光会社が商品づくりに入っていない。福島県という名だけで商品がないという現象で、観光バスが一台も来っていない。当町も産業として、農業・観光・商業に、かなりの被害が出ている。ただ、農作物に

関係の害はないので、販売を強くしていきたい。こんな中、当町と交流のある皆さんから物販をお願いしたいとの問い合わせが増えている。

A (総務課長) 温泉組合・飲食店・その他商工会関係で、風評被害の金額は、6,500万円ほどである。農業関係の出荷作物は、それほど被害がないとの報告を受けている。今後、物販とPRを兼ね、首都圏等へ10回ほど行く予定である。農作物については、今後、出荷していく

中で、国・県の補償制度対策を注目しながら、町として検討したい。

Q 業種ごとや、農作物であれば作物ごとの被害状況、減収見込み額等、できるだけ細かく調査する必要があるのでは？

A (総務課長) 東電と国が、どういった基準で風評被害に対する補償を出すのか、念頭に置きながら細かい部分まで調査したい。

Q 風評被害対策はスピード感を持つてあたるべき。役場内に相談窓口を設け、対応し

ては如何か。

A (総務課長) 風評被害対策会議の発足により、現状調査の過程で、聞き取りながら、今後の対策を講じるということで、展開していく

考えである。

が、見直す時期が来た。どのようなことに留意して次期計画を策定するのか？

A (町長) 当町に入所待機者は、6月10日現在で164名、うち町民が61名。今後何らかの入所施設整備が急務となってくる。施設の規模、整備時期については確定していないが、特別養護老人ホーム等の入所施設の整備を検討している。

Q 特別養護老人ホームは2種類ある。柳津町民のみが入所できる「地域密着型」の新設を。

A (町長) 「地域密着型」、これは大変いいことだと思うが、将来を展望して、今後も対象者が増加傾向であることから、当町で、間に合う心配である。長期的な展望に立ちながら、判断をしていきたい。

A (町民課長) 町民が優先するとうメリットがあるが、民設民営での採算性の問題

や、町に専門的知識が必要となってきたり、対応が難しい。皆さんと協議して進めたい。

Q 地域密着型が待機者の解消につながり、この実現を要望する。民設民営は、経費面も重要な問題。利用度が大い

いシヨートステイの整備を含め、整備体制と場所をどのようにお考えか？

A (町民課長) 町としても「福祉ゾーン」といった形で計画したいと考えているが、のぞみ・福柳苑ともに、複合型の施設整備は、難しい。シヨートステイは、農繁期等に利用が集中する。他町村に依頼しているが、容易ではない。この整備も当然、考えていく。

A (町長) 今後の町を考えた時、何が一番必要なのか、限られた財源の中で、町民の皆さんに納得していただくような手法をとり、進めていく。

高齢者福祉

Q 現在、町では第5次高齢者福祉

計画及び第4次介護保険事業計画に基づき、介護福祉事業を実施している



7番 荒明 正一議員

○東日本大震災への対応
○人事異動等と予算執行
○町長選・3選出馬

東日本大震災への対応

Q 3月11日の地震・津波による災害、並びに原子力発電所の事故が発生し、3ヶ月が経過したが、次々と新しい事実が発表され、大変な事態になっている。町は今後、この影響を乗り切るためにどのような対策を考えているのか、伺います。

A (町長) 震災の影響、原発事故の放射線による風評被害等により、農業・商工業など、産業・経済活動に多大な影響を及ぼし、先行きが不透明である。町においては「柳津町東日本大震災風評被害対策会議」を設置し、誘客活動とあわせて、農産物、特産品の販売、商工業と町民の経済的支援として福満商品券の追加補助、住宅改修費の補助等の対策を講じていく。農業関係については、

出荷制限の農産物はないが、風評被害対策の観光PRとあわせて農産物のPR活動を展開したい。

Q 出荷制限の農産物はないというが、楽観的過ぎる捉え方では？

A (町長) これらについても、きちんとしたデータをもとにして、農家の方がやる気を出せるようにしていくのが私の務めであるので、悲観的にばかりなっている前に進まないで、その辺は大きな見地から見たいと思っている。

Q (総務課長) 今後、農産物については、これから最盛期を迎える。系統出荷はJAのほうで責任を持つて集荷するとの回答をいただいている。町としても物販の安全・安心という意味で、関東方面、姉妹都市等にPRし、農産物の販売促進に努めたい。

A (地域振興課長) 菜種についても出荷制限はなっていないが、去年の絞った油を製造した会社が、放射線が検出されたら非常に困るということ、今回は、福島県産は取り扱っていないことになった。これから県では放射線の検査を実施し、結果がどうなるかわからないが、今のうちから菜種油を商品として付加価値をつけたい。それには、油を搾る代金が昨年と同量の場合、二十万円位高くなると予想されるので、補正予算等で対応したい。また販売体制については、物販とか振興公社、そして商工会とも相談しながら、考えていきたい。

人事異動等と予算執行

Q この4月1日の人事異動と、昨年末の「きめ細かな交付金」のうち、二千万円の使い方について、わかりやすく説明願いたい。

A (町長) この度の地震により、県等においては、6月に異動を延期したが、町としては「災害対策本部」を設置して被害調査を実施

し、大きな被害はなかった。3月31日現在で7名が退職したため、業務執行に支障をきたさぬよう、4月1日付の定期人事異動を実施した。そしてまた、現下の地域振興課は、多岐にわたっている。今回の大震災により、観光分野に到達している。今後、この体制でいいのか、より充実するために今年度中にきちんと取り計らい、町民に伝えられるような課の設置等も考慮し、体制を整えて生きたい。次に、きめ細かな交付金の使途ですが、現在までにコンバイン・乾燥設備は、納車・検査が終了。キャリアトラックは8月31日納車予定。又、パワーシャベルは、全員協議会での議員の皆さんのご意見を考慮し、購入しないこととした。また、JAの既存のコンバインについては、JAが整備後、購入を予定している。

継続すべきものと改めるべきものがあると思うが、見解を伺います。

A (町長) 町民の皆様のご信任をいただき、2期8年務め、努力をしてきた。この間、多くの方々のご協力、ご支援、ご指導等を賜り、公約実現のために誠心誠意努力をしてきた。特に、町民の皆さんの温かい後押しのおかげには感謝を申し上げます。

振り返ると、子育て支援、高齢者福祉の充実、また交通網・情報網の整備、農工商・観光の連携とそれぞれに努めてきた。今後さらに、現在進行中の町づくり事業、山の道地域づくり事業、柳津北部農業生産基盤整備事業など、農工商・観光と、知恵と工夫で効果的な事業を展開したい。

町民が健やかに、また安全・安心で協働の町づくりを目指し、町政は子々孫々の預かり物として、いで湯と信仰の誇り高い郷土として胸を張って頑張っていきたい。

町長選・3選出馬

Q 過去2回の選挙、公約を振り返り、

過去2回の選挙、公約を振り返り、



1番 横田 善郎議員

○東日本大震災及び 原発事故に伴う町の対応 ○地域主権改革による町の実財政改革

東日本大震災及び原発 事故に伴う町の対応

Q

東日本大震災、及び原発事故はわが町にも多大な影響と教訓を与えた。町は「風評被害対策会議」を立ち上げ、対策を決定したが、次の点を伺う。

- ①町長選挙及び付随する町議会議員補欠選挙を延期した経過は？
- ②国のエネルギー対策の見直しによる町の各種計画の見直し・対応策は？
- ③町の防災計画、避難場所の見直しの必要性は？
- ④今までの放射線値に対する対応と今後の対応、特に農産物に対する風評被害防止対策と放射線測定による安全対策は？
- ⑤公共施設のエネルギー節減計画は？
- ⑥風評被害、地域経済の落ち込みに対する対策は？

A

(町長) ①平成23年東北地方太平洋沖地震に伴う地方公共団体の議会の議員及び長の選挙期日等の臨時特例に関する法律の規定により、4月の統一

地方選挙の期日を、2ヶ月を超え6ヶ月を超えない範囲において政令に定める日となっており、総務省から政令により6月26日選挙実施の通知がありました。

- ②この度の原子力事故に伴い、国においてはエネルギー施策の見直しをすすめているが、方針がまだ示されていない。国の政策等を注視したい。
- ③最近のゲリラ豪雨など、土砂災害に対する避難場所等の見直しの必要性があると考えている。
- ④各学校等において、測定器を配置し、児童生徒の安全を図っている。農産物においては県において出荷制限をしているが、当町のそれはない。風評被害対策の観光PRとあわせて農産物の販売を行い、安全・安心のPR活動を展開したい。
- ⑤今年の電力不足に備え、役場庁舎等の公共施設においては、従来の地球温暖化防止や省エネルギー対策の推進とあわせて、使用最大

電力の15%を目標として、空調や照明の節電に取り組み。

Q

⑥観光PRとして、誘客活動とあわせて農産物・特産物の販売、福満商品券の追加補助、住宅改修費の補助等の対策を講じることとする。

- ②ですが、町のエコ対策、町の自主エネルギーの確保等、総合的に検討すべきである。「小水力発電施設」を計画の中に入れては如何か？

A

(町長) 将来にそれぞれ持つている特色を生かし、景観を損ねないようなエネルギーを考えたい。それを基本として考え、自然のいろんなものに左右されない、現実的に稼働するような方法とるべきことから、これから常に、研鑽、勉強しなければと思っています。

- ③ですが、見直しを考えていることだが、多種・多様な業種と総合的な協定を結ぶ考えはないか？

A

(総務課長) 今回の地震で燃料の確保に苦慮した。また、食料の調達も難しかったので、関係商店と協定等相结合、対応できるように、今後十分に検討していきたい。

Q

④ですが、新聞報道されたが、町はどんな対策を講じて屋外プールを使用するのか？

A

(教育長) プールの使用については、問題ないと教育事務所から通知あり。水質検査も実施し、使用可となったので、小中学校の授業では、学校プールを使用させ、夏休みは、学校プールを閉鎖し、B&Gの屋内プールを使用させたい。だが、西山小中は、通うのが大変であるから、学校プールも許可した。なお、B&Gの使用に際し、土日を除き、平日はすべて小中学生、無料にしたい。

- ⑥ですが、奥会津の柳津というところで、奥会津を前面に出

A

(町長) 現在、私が、只見川の観光協会長をやっているが、信任を受けたらば、先頭に立ってPR活動をしていく。

Q

安全確保の意味から、道路改良工事でも対策の重要な柱である。特に、柳津・昭和線や五畳敷・大成沢線の改良について伺います。

A

(町長) 浜道り地方の災害により、既存の公共工事により、懸念は出るので、懸念したが、県の上部等に確認したら、会津地方の道路関係予算等については、対応するということが、安全な道路の整備を図りたい。

- その他の県道改良工事、あるいは町道の予算について、予定どおり実行されるのか？

A

(地域振興課長) 県道では、会津若

一般質問

- 松・三島線の銀山、藤・住宅改修をして公共下水道小椿線の長窪と石坂も予や農取排に入ってもら算がついた。湯八木沢とといった方策を考えて久保田間についても、調る。町の自主財源に影響査費がついた。大野新しないよう、今後とも努力田と五畳敷・大成沢線力したい。
- は、都市再生整備事業で、95%ほどつき大体予算化される予定です。
- Q** 本年度の町の税収や公共料金等、減収が予想されるが、対策は？
- A** (町長) 入込み客数がかなり減少していること、例えば、美術館については、町内に宿泊すれば特典を与えるといった工夫を、館長・教育長と協議したい。
- A** (総務課長) 水道料や下水道料は、入込み客が少なくなれば、当然減ってくる。旅館組合との協議で、被害が少ないように対策を講じたが、特別会計なので、一般会計からの繰り入れというところも考えていく。もう一つ、住宅環境整備として、今回6月の補正で、3,000万円ほどの追加補正により、
- Q** 町は合併しないか？
- A** (町長) 当町も少子高齢化で悩んでいるが、役場職員初め、若い力が意識を持ち、限られた人員だが、サービスの低下にならないように行政改革を進めていく。
- Q** 町は合併しないか？
- A** (町長) 当町も少子高齢化で悩んでいるが、役場職員初め、若い力が意識を持ち、限られた人員だが、サービスの低下にならないように行政改革を進めていく。

地域主権改革による町の行財政改革

○東日本大震災における避難者の今後の対応について



8番 伊藤 毅議員

- 東日本大震災における避難者の今後の対応について**
- Q** ①さきの大震災により被災された方や原発事故により避難された方が数多くおられるが、町では今後、どのような対応をしていくのかお伺いします。
- A** (町長) ①葛尾村は、村全体が計画的避難区域に指定されており、3月22日に健康福祉プラザ銀山荘に避難されてきた。4月1日からは、県の指示により約200名が町内のホテルや旅館に避難された。現在、銀山荘には介護が必要な高齢者等が34名おられる。仮設住宅は、三春町に約450戸建設中で、6月26日から随時、地区単位ごとに移り住むようになる。尚、銀山荘にいる方々は、8月中をめどに移り住む予定です。
- Q** ②南相馬市から13名が避難。町内の関係会社にも勤務していたが、すでに南相馬市に戻られた。
- A** (町長) 今、浜通りには、日本でも重要な企業が進出して、
- Q** ①町ではいち早く、避難者を受け入れ、ホテルや旅館、山荘に分かれて避難していますが、苦情や悪い話がかく聞かれない。これは、町行政はもとより、ホテルや旅館の対応が大変良かったのではないかとされる。あとわずかな期間ではあると思いますが、安心して暮らせるようお願いします。
- A** (総務課長) わが町は、インターに近い町でありますので、やはりセールスを行うべきだという助言をいただきたく思います。
- Q** ③3月の大震災により、行き場のない企業もあると思われる。そこで、企業等への手助けを行って、町への企業誘致につながると思われるが、如何か。
- A** (町長) 今、浜通りには、日本でも重要な企業が進出して、

委員会レポート

総務文教常任委員会

5月12日に町内の現地調査を実施しました。

参加者は、総務文教常任委員4名、議会議務局長、公民館長、出納室長の10名で行いました。

調査箇所及び調査結果、意見は次のとおりです。

1. 西山小中学校、柳津小中学校については、学校運営全般について説明を受けました。

①西山小中学校の側溝整備については、庁内で協議の上、対策を講じる必要がある。

②西山小中学校の体育館は、耐震強度の基準を満たしていない。子供たちの安全を確保する上でも、早い段階で対策を考えるべきである。この対策は、今後学校の統廃合の是非の判断によって大きく結論を異にします。従って、学校統廃合の問題を先送りすることなく

議論を進め、町としての判断を示すべきであると考えます。

③柳津小学校は、来年度、大規模改修工事が予定されている。その設計に当たっては、雨漏り等の補修個所の確認調査を行ない、実施すること。

④柳津中学校では、ヒマラヤスギの折れた枝が落下する危険があるなど、校庭周辺の樹木の管理に務めること。

2. 高森地区集会所では、敷地内にある残土を処理し、さらに敷地の整備を図ること。

3. 美術館においては、①空調の不具合は修繕が必要であり、幾つかの空調設備を効率よく修繕するために修繕計画を作成し、それに基づいて修繕を実施すること。

②入館者が落ち込んでいたところ、さらに原発事故による風評被害の影響で、観光客の減少がさらに懸念される。来館者を増やすため

に、さらなる経営努力が必要と考える。その後、役場庁舎に戻り、クロスの張替え、カーテン交換工事の箇所、及び出納室においては指定金融機関の説明を受け、現地調査の日程を終了した。



産業厚生常任委員会

5月12日に町内の現地調査を実施しました。

常任委員5名、議会議務局長1名、行政当局より地域振興課長、町民課長、保育所長の同行をいたしていた。

①林道・大峯線、せり出し防止柵の設置について調査した。今後、バス運行上の安全確保の上から、適切な工事を実施する必要性がある。②五畳敷・大成沢線の側

溝ふたがけであるが、2、3年に亘って実施され、完成に至った。

③高森地区集会所は、地区民の有効活用が期待される。

④五畳敷の温泉について調査したが、新しい機械を入れて、試験的に稼動しているが、極めて順調に運営されており、今「せいざん荘」に明るい展望が見えた。

⑤西山保育所は、周辺の側溝整備が行われ、衛生上考慮した工事で、完成度は良好。

⑥細越の「ニンニク部会」倉庫の備品については、今後有効に使用し、発展を願う。

⑦柳津保育所の屋根塗装は、きれいに完了。



磯部静雄議員が福島県町村議会議長会両沼地方町村議会議長会より表彰



この度、磯部静雄議員が町村議員として11年以上在職されたことを表して、福島県町村議会議長会より、また、10年以上在職されたことを表して、両沼地方町村議会議長会より表彰されました。

去る6月26日、「柳津町議会議員補欠選挙」で当選した齋藤正志議員が総務文教常任委員に選任されました。

お知らせ

第3回定例会は、9月14日から22日の予定です。皆さん気軽に傍聴においで下さい。

- 【広報編集委員】
- 委員長 小林 功
 - 副委員長 横田 善郎
 - 委員 伊藤 毅
 - 委員 齋藤 正志
 - 委員 田崎 為浩